

福祉新聞に掲載された

鈴木会長の「新年挨拶」

若者に希望のもてる福祉を

(N)日本ソーシャルワーカー協会会長

鈴木 五郎



若者たちが福祉介護という仕事に希望を見失い、職場から学校から大量に離れてゆく。ゆゆしき事態なのに関係者の動きは遅く、まともならず専門職団体も縦割りのままごうけない。

また、市町村分権がすすめられ福祉は「自治事務」という位置づけになったが、あいかわらず行政の窓口には、社会福祉士など専門職の配置はされていない。社会福祉法には社会福祉士の規定は、一行も見当たらない。

伝統的な社会福祉の要援護の人々に契約の論理は無理がないのか、課題は山積していると思う。

我が協会にはこれまで日本の福祉の歴史を築き上げてきた熟年の会員が多い。「日本の福祉は、これぞいいのが」を合言葉に、一丸となつてこの一年を取り組む決意である。